

させほ夢大学

発行●公益社団法人 させほ夢大学
編集委員会

事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させほ夢大学会報

No.303 (2021・5)

令和3年度
第2回

2021年5月30日(日)

アルカスSASEBO 大ホール

1部 開場 12:00
講演 13:00 (終了14:30)
2部 開場 15:30
講演 16:30 (終了18:00)

今回の講師は、フジテレビ「ホンマでっか!?TV」、テレビ朝日「大下容子ワイド!スクランブル」など、テレビコメンテーターとしてもおなじみの、脳科学者、医学博士、認知科学者の中野信子さんです。

中野さんは、脳や心理学の研究という科学の視点から、私たちの人間社会で起こり得るさまざまな事を分析し、分かりやすく読み解いて、数多くの著書を出版されています。

「家族の悩みはあなたのせいではない!」と、親と子どもの問題の原因を分析し、向き合い方を分かりやすく説いた『毒親』。

「がんばっても報われない」と



なかの のぶこ

講師●脳科学者 中野 信子氏

思う人に、痛快な示唆を与えてくれる『努力不要論』。

さらには、ギャンブル依存症など、人間を支配する快楽物質ドーパミンの正体を読み解いた『脳内麻薬』などなど、人生の問題を解決し、生き方の軌道修正に導いてくれそうな本を、続々と出版されています。

今回のテーマは、「脳を科学する一世界に通用する人がいつもやっていること」。このお話を聴いたら、私たちにもきっと…、もしくは子や孫の代には、世界に通用するような新しい自分創りができるかもしれません。

どうぞご期待ください。

テーマ●脳を科学する一世界に通用する人がいつもやっていること



次回のご案内

- と き / 6月17日(木) 18:30~20:00
- 講 師 / タレント 西川 きよし氏
- テーマ / 人生は小さなことからコツコツと

●高知県出身。1963年、石井均に師事。1964年、吉本新喜劇に研究生として入団。1966年、漫才コンビ「横山やすし・西川きよし」を結成。テレビ番組「素人名人会」「パンチDEデート」「プロポーズ大作戦」の司会を務めるなど、やすきよブームを巻き起こす。上方漫才大賞、文化庁芸術祭優秀賞、ほか受賞歴多数。1986年、参議院議員選挙に初当選し、3期18年の議員生活を務める。2016年、旭日重光章を受章。2019年、芸能生活55周年を迎えた。2020年、文化功労者に選出された。現在も劇場出番をはじめ、テレビ、ラジオで活躍中。

講演会は1日2回開催です。詳しくは裏面のお知らせを必ずお読みください。

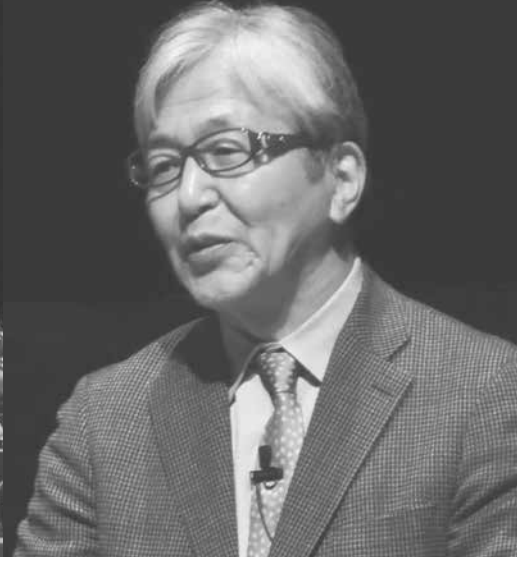
中野 信子 氏のプロフィール

●東京都出身。東京大学工学部応用化学科卒。同大学院医学系研究科脳神経医学専攻博士課程修了。フランス国立研究所にて博士研究員として勤務後、帰国。2015年東日本国際大学教授に就任。現在、脳や心理学をテーマに研究や執筆活動を精力的に行い、科学の視点から人間社会で起こりうる現象及び人物を読み解く語り口に定評がある。メディアでは、テレビ朝日「大下容子ワイド!スクランブル」、NHK BS プレミアム「英雄たちの選択」、フジテレビ「ホンマでっか!?TV」等に出演。小説新潮に「孤独な脳、馬鹿になれない私」を連載中。





氏中三十二 数



させば夢大学講演会

世界に負けない日本 一国家と日本人が争うべきこと 講師 数中三十二 氏

若者へ・世界を相手に

- ◆自分の考えを持つこと
- ▶世界の主な問題について、自分の考えを
- ▶日本の歴史・文化を語るように
- ◆Speak out
- ◆Speak out with logic
- ◆Outstanding performance
- ▶言い訳はダメ(ポジティブに)提案力を

日本の果たすべき役割

北松浦郡佐々町 法本 安子

令和3年度、30期節目の夢大学が開講した。無事開講できたのもスタッフの皆様のお陰、感謝の思いでいっぱい。いろいろな知識、考え方を学び、自分づくりの糧とした。

第一回目は大学教授で、外務事務次官を務められた数中三十二氏。さすが外交官、柔軟からで紳士的なお人柄が素敵

■あるテレビ番組での部分的なコメントでは、先生の意図が十分に伝わってこなかったが、話をちゃんと聞いてみないと分からないものだ。今日の数中先生の主張は理解できた。このような姿勢で外交交渉をされている方々に敬意を持つことができた。

佐世保市中里町●林田 浩二

■昨年までと違い今年は全員入学できましたと話されました。先生のお話はスライドなどで説明され、全部とは言いませんが分かりました。今、あちこちの国で争いが起きていますが、地球人全員でコロナを退治する話し合いが出来ないのでしょうか。

佐世保市木風町●西 照美

■折からの、新型コロナウイルス第4波の到来が危惧される中、30期の夢大学が静かに開講した。今年も知的好奇心を満たすに十分な10名の豪華講師陣である。最後まで元気に、熱心に学んでいるように思った。

佐世保市光月町●國松 仁志

■15日訪米、会談を前にした噛み合わせの初回講演。世界を視点においたテーマに圧倒されたが、噛み砕いた話の内容に分かり易かった。日本、アメリカ、インド、オーストラリア包囲網の「クアッド」。中国の執拗な台頭に世界が危険な包囲網に動いているが、毅然とした日本の主張にチャンスはあると結ばれた点に注目したい。

東彼杵郡波佐見町●田添 穂澄

■「世界での日本の立ち位置は悪くない」と数中三十二氏。では、今いる場所での私の立ち位置は何かと考えたら、「こういう時代だからこそ、自分を高め、地域に貢献し、自分の得意なことをやって、人づくりや自分づくりに活かしていく」との思いになる。コツコツと一步一步前進し、自分で出来ることを取り組む。

佐世保市早苗町●牧 千尋

■ベルリンの壁崩壊後の世界に逆戻りし、危険になった世界。外交で上手く治めて欲しい。日本の外交、これで大丈夫か？頑張ってもらいたい。ありがとう。

佐世保市花高4丁目●石田 身延子

■今回の数中先生の話で、世界と日本の関係、また世界との友好、協力関係をどうしたらいいか分かったような気がします。

佐世保市高花町●山下 耕太

■コロナの時に無事に新年度を迎えられたことを有り難く思い、関係者の皆様にお礼を申し上げます。今日の話はとても難しい国際問題を、分かり易く説明して頂き、いろんな国がそれぞれに事情があり、簡単に白黒は付けられないことがたくさんあるのだと分かりました。日本のことだけでなく世界のことも見ていかなければいけないと感じました。

佐世保市大宮町●田中 美禰

■世界情勢の総括、よく理解できました。数中氏からは外交官時代の世界各国との交渉の裏話や、今後の米中関係の行方なども聴きたかった。その中で日本の姿勢はどうあるべきか？も聴きたかった。

佐世保市島瀬町●廣瀬 典治

■私にも分かるような口調でとても理解できました。機会があればまた拝聴したいです。

佐世保市島瀬町●廣瀬 朱美

■海外在住8年の経験からも、今日の話は非常に参考になりました。認識を新たにしました。

佐世保市世知原町●片岡 秀嗣

■国際交渉の生々しい話を聞いて良かったです。

東彼杵郡波佐見町●高村 誠治

■客観的に分かり易く解説して頂き、また日本の役割を認識することができ、大変良かったです。いつも世界に目を向けていきたいです。

佐世保市椎木町●山口 清志

である。一時間半「数中塾」は外交問題が盛りだくさんで、一介の主婦の私には難しい言葉もあったが、これからの日本の針路とはどうあるべきか、少しは理解できたつもりだ。

スピークアウト「自分の意見を発信する」という力は、現代の日本人には足りていない能力のようだ。日米中のなかで日本の立ち位置、日米関係を堅持しながら、大国化する中国とも共生、どう向き合

うか難しい問題である。周辺諸国との関係性も絡む、そんな日本の果たすべき役割とは？

令和時代の新外交の模索、グローバルな感覚で日本の総合力「日本力、外交力、防衛力」を駆使し、「アジアの平和、ひいては世界の平和のため、日本の果たすべき役割は大きい。被爆国日本だからこそ、世界へ平和を発信して欲しい。

これからの日本をみつめなくては！

佐世保市東山町 中溝 悦美

久しぶりで楽しみの夢大学でした。しかし乍ら以前とは大きく様変わりした様子で、本場に早くコロナの収束を願うばかりです。

さて、させば夢大学創立30周年という節目に相応しく、数中三十二さんのお話を聴けたのは大変ラッキーでした。40年に亘り、初めの20年は海

世界に示せ日本力

講演を聴かれた感想をお待ちしています！

※締め切りは講演日の1週間後(必着)
※宛先は、させぼ夢大学事務局まで

将来の若者たちに期待

佐世保市権常寺町 田中 和之

外各国との経済交渉、残り20年は主にアジア諸国との交渉に携わられました。これからの経験を活かして、これからの日本を背負うであろう若き学生たちに伝える「グローバル寺小屋」を主宰しておられるとか、頼もしい限りです。

自分の考えがはっきりいえる若者達が、世界へと沢山育つて欲しいものです。それには日本の歴史、文化をしっかりと語れるようになる自助努力も必要でしょう。アメリカ大統領がバイデン氏になり、目まぐるしく変わる世界情勢。アメリカ、中国間の立ち位置では、日本はかなりいい所に来ているらしく、我が国の出方では注目されるでしょう。

しかし中国の大国化の尻、戦狼外交とやらは一带一路政策の岐路でも見られるように、しっかりと目が離せない状態です。勿論、昨今の東シナ海を平和なものにすることが一番大事ですが、耳新しいQUADサミットは、インドも含め4つの国で、中国と向き合う為の大きな陣立てになるらしく、新しい切り口ではないかと大変興味深い話でした。

若者達だけではなく、我々熟年達も、しっかりと世界を観る目を養う努力をコツコツとやりたいものだと思感しました。



「国家と日本人が今なすべきこと」と問われれば、回答がすぐに見つかりません。現在、国際間は緊張の連続である。日本から見た場合、対中国、ロシアなどのほか、同盟を結んでいる米国をはじめ近隣の東南アジア諸国、さらに欧州の諸国連合を見た場合、経済的な結びつきではなく、やはり戦略的な考え方が、意図して表に出てくる場合が多い。こうした考えは、第二次大戦以前にもみられた。しかし、各国が自国の利益を優先するあまり、大戦の繰り返しであったと記憶される。しかも、戦争だけでなく、感染症にも影響され、人類は悲惨な状況を幾度となく経験したのである。このことは世界的に民度が未成熟であったからと考えられる。

今まさに令和の感染症流行のなかにあるけれども、行政

や政治だけでなく民意を高め、世界に乗り出すような人材の育成、さらに活躍できる機会を与えるべきである。高度な技術や学問だけでなく、信頼関係が必要と思われる。

幕末から明治にかけて多くの日本人が欧州を目指した。時代背景は違うものの、高度な技術は持たなかったのである。私の記憶では、数十年前に、ある学校の先生が生徒に「世界の人々と戦いをしないためには、どうしたらいいですか?」と尋ねたら、生徒は「信頼し友達になることです」と答えたそうです。こうした考え方を持った世界で、活躍する若者に期待したい。

社会情勢を見つめていきたい

佐世保市大和町 新北 博美

今回初めて入学しました。藪中さんの講演を聞いて、今、日本がどういう社会情勢の中におかれているのか、理解できました。毎日ニュースを見ていますが、特に意識せずに見ていたんだなあと、痛感し反省しました。

ウイグルや、昔はあんなに素敵だった香港、そして台湾、ミャンマー問題等、目を覆い、耳を塞ぎたくなる様な事柄があふれていて、一体どうすればいいのだろうと分かりません。しかし、藪中さんのお話で、日本は日本の培ってきた力で何とかでき

るのでは? いや、そうしてもらわないといけない!!と思えました。

今年就職した息子と、今、大学生の娘にも、先ずは今世界で何が起きているのか知っておくことが必要と、藪中さんから教わったよとメールしました。

講演会の後、帰宅してテレビをつけたら、まさに皆さんが、「インド太平洋を安全な開かれた海へ」と言っている、とてもタイムリーなお話でした。今後は社会情勢をしっかりと見つけていきたいと思いました。

外交の要諦を聴く

佐世保市南風崎町 横山 春美

いよいよ「させぼ夢大学」の第三十期がスタートした。新型コロナで開講式ができなかったのは寂しいが、三十年の歴史を築いてこられたことに敬意を表します。振り返れば、第一期の開講式の会場は、花園町の佐世保市民会館だった。講師は評論家の草柳大蔵氏。一期の他の講師陣は、藤本義一氏や先代の三遊亭円楽氏、團伊玖磨氏など懐かしい面々。しかし、残念ながら故人となられた方も多い。

さて、トップバッターは元外交官の藪中三十二氏。日米首脳会談を控えたグッドタイムング。日曜朝のテレビでおなじみだが、物腰の柔らかさ

夢大三十期の幕開けは
外交の修羅場を体験された



テレビでもお馴染みの
藪中先生!

が好印象。北朝鮮の拉致問題などで活躍されていた事が記憶に新しい。

交渉ごとは、おしゃべりで、理屈っぽく、目立ちたがり屋でなければならぬと力説。外務省勤務が四十年との氏の経験からの極意を示された。

時あたかも日韓問題、中国の海洋進出、米中摩擦、ミャンマーなど国際問題が山積している今日。日米同盟を基軸に我が国の文化、技術などの日本力を発揮して、アジア諸国との共生を図らなければならぬとのこと。また近隣諸国との信頼関係の重要性も説かれた。

大学で教鞭を執り、月に一度の「藪中塾」で若者の人材育成に努め、今なお活躍されている。外交が非力といわれる日本の進むべき道を指し示していただくよう、今後、益々のご活躍をお願いします。

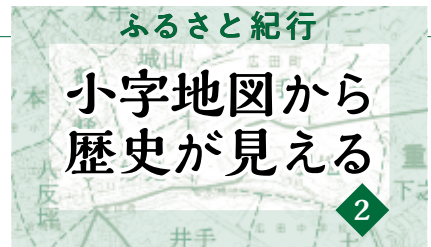
大切なお知らせ

- 5月30日の講演会は、新型コロナ感染による3密を避けるために、**1日2回講演**にて実施します。
第1回目講演は13時00分から、第2回目講演は16時30分からです。
- 1回目講演と2回目講演の振り分けは、**4月に送付している「入場証(5月分)」**に記載しています。
- 各講演の時刻表等を記載した**入場証に、必要事項をご記入の上、学生証と共にご持参ください。**
- ご入場の際は、手指消毒・検温をしますが、**体調の悪い方は入場をご遠慮ください。**
- できるだけ不織布マスクを着用し、会話は控えてください。**
- ホールの客席は一席ずつ空けてお座りください。また、席取りはご遠慮ください。
- 1回目と2回目の入れ替え時には、ホール座席等の消毒及び清掃をしています。
- 携帯電話等の各種電子機器は、電源を確実にお切りください。**
- 学生ご本人が欠席で代理出席の場合も、必ず、学生証と入場証をご持参ください。もし、両方ともない場合は、万が一、感染者が発生した場合、補足追跡ができませんので、入場をお断りすることになります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



「鬼塚」という所には古墳が多いといわれる。宮の「鬼塚」はまさしく当てはまる。宮津町の久津浦が見える段々畑の横の木に覆われた中にこんもりと土饅頭状の古墳らしきものがあり上には祠が祀ってあった。祠の付近は陥没したようなくぼみがあった。宮地区の郷土史家中島雄俊氏は、古墳であろうと考えられて、被葬者は『肥前國風土記』(八世紀初頭撰)にある「速



宮の小字「鬼塚」

佐世保史談会副会長
宮崎 勝秀



来津姫」ではないだろうかと推論されている。通説では姫の名はハヤキノツヒメと読まれている。早岐を支配した女王だろりとされている。一九九八年に佐世保市教育委員会によって墳丘の外側三か所の試掘調査が行われたが遺物類はなかった。二〇一三年に墳丘内部の本格的な発掘調査が行われた。古墳の石室内からは青銅鏡などが良好な状態で見つかった。やっと鬼塚が鬼塚古墳と確定された。玄武岩で覆われた石室内には、国内製の青銅鏡「変形四獣鏡」一枚のほか、鉄製品の素材となる鉄の延べ板「鉄てい」や鉄製の短甲(鎧)、鏃、小刀が出土した。出土品は四一五点。古墳は円墳で直径約一五メートル、高さ約三メートル。市教委は「鉄ていを大村湾の交易で入手できる権力の強い者が埋葬された」とみられる」としている。県考古学会



の下川達彌会長は、大村湾一帯ではこれまで五世紀後半の古墳が見つかっていなかったため「県内の古墳の変遷を解き明かすもので、大きな価値がある」とコメントした。形などから五世紀前半にヤマト朝廷から贈られたとみられ、市教委は古墳をこの時期のものとして特定した。ヤマト朝廷の武具はこれまで九州では福岡県の玄海灘沿岸などで多く発掘されたが、長崎県内の古墳では見つかっていなかった。古墳に葬られた豪族が朝廷と深いつながりがあった証拠で、市教委は「豪族は倭国から朝鮮半島に出兵した兵士や水先案内人だった可能性がある」とみている。広田の「三島山古墳」は大衆墓の説もあり、出土した土器により五世紀中頃のものとされ、鬼塚古墳やテボ神古墳との関連も考えられる。次回は重尾の小字「勝退谷」、勝ち戦さの地名か、小字地図から歴史が見えるでしょうか。

講演を聴かれた感想をお待ちしています! 600字程度にまとめて、させば夢大学事務局まで、郵便・FAX・メール等でお送りください。締切日は原則として、講演日の1週間後の木曜日(必着)です。